

2/26(土) まいど! 倫理です。積り雪も解け眩しい朝日感じる今日の頃  
皆で年賀状をかかすはですか?  
今日の「明朗愛和」は、この会社でもあり事ですが...  
経営者の率先垂範し手本を示す

2021. 2. 20~2. 26

今週の

倫理

2月のテーマ

明朗愛和

マツダ知下野

1217号

幸也 蓮心: 阿ホ-鳥

倫理運動の創始者・丸山敏雄は、「愛和」について、次のように説いています。

仲よくするところにすべてが生まれ、争うときは一切がこわれる。「愛」は、抱く、暖める。「和」は、万物をそこに生かす。世の中の不幸は、みんな愛和の欠けた事から起こる。

『人類の朝光』

経営者のA氏は、業績が上がらない状況を「社員のせいだ」と、社員に問題を転嫁して叱責ばかりしていました。経営者がやるべき仕事を社員に押しつけて、失敗すると、「オマエがしっかりやらないからだ」と、きつく注意します。他にも理不尽なことを命令口調で指示します。一人、二人と退職者が出て、お客様からは仕事に対するクレームが多くなっていたのです。

A氏が社員を呼び出して注意をすると、社員は黙ってうつむくだけです。社内は、いつも空気が重い状態でした。一方、A氏は「何でアイツらは、俺の言う通りに動かないんだ」と思っ腹を立てるたびに、胃がキリキリ痛むのでした。

ある日、仕事がスムーズに進まないことにイライラが募っていたA氏は、会社の駐車場に車を停める際に、操作を誤ってブロック塀にぶつけてしまいました。その後も財布を落とすなど、負の連鎖が続きました。そのような時、A氏は久しぶりに、経営者モーニングセミナー（以下「MS」）に参加しました。『万人幸福の栞』第八条を他の経営者が輪読しているのを聞きながら、文字を目で追っているうちに、その言葉一つ



## 真の愛和を発揮した時 職場環境が変革する

ひとつが胸に突き刺さってきたのです。

一人の明朗な心境（こころ）は、その人の肉体健康の元であり、家庭健康の中心であり、事業健康の根源（もと）である。うち沈んだ、暗い、よわよわしい心の持主（もちぬし）は、きつと体が弱い。病弱の人が一人でもあると、その家庭は梅雨時のようにじめじめする。そうした家に住む人は心がにぶる。張りをなくし、気おくれする。決断力がにぶる。何をしてもうまく行かないのが当然（あたりまえ）である。

それは、今まで目にはしていたものの、腑に落ちないでいた言葉でした。

MS終了後、A氏は先輩の経営者に会社の状況を相談しました。すると、「自分が変わらなければ、相手も変わらないよ。まずは、毎朝温かく社員を迎え入れなさい」と助言されたのです。

翌日からA氏は、今までとは違って、誰よりも早く会社に行きました。出社する社員に笑顔で「おはよう」と声をかけると、社員は驚いた顔をするだけです。それでも毎朝、真心を込めて笑顔で挨拶することを繰り返しました。仕事で問題が起きた時には、怒鳴りたい気持ちグツとこらえて、その原因を一緒に突き詰めて処理しました。そうしているうちに、いつしか社員から明るい声で挨拶をされるようになったのです。様々な相談や提案を持ちかけられるようにもなり、クレームも減っていききました。トップが社員に愛情を注ぎ、問題解決へ率先垂範して手本を示すことが、職場を良い方向へと変えていくのです。